

講義名	スポーツ文化論			授業形態	
担当教員	山口 泰雄	開講期・曜日・時限	後期 月曜日 1時限		
		単位数	2	履修開始年次	2年生

主題と概要

スポーツは、世代から世代へと継承されてきた人間固有の文化である。スポーツは、運動能力の優れたアスリートや若者だけの活動だけでなく、ライフステージを過ぎて一人ひとりを楽しむことができる「生涯スポーツ」として世界中へと広がった。また、スポーツ文化は民族や地域、世代、ジェンダー、学校・大学、イベントなどで発展し、その多様性 (diversity) と包容性 (inclusion) が注目されている。

本稿では、特に「するスポーツ」、「みるスポーツ」、「ささえるスポーツ」というスポーツ文化の側面に着目する。「するスポーツ」においては、スポーツの楽しさや社会化過程に焦点を当て、スポーツクラブや生涯スポーツ、スポーツ・フォー・オールの方を解説する。「みるスポーツ」においては、オリンピックやパラリンピック、海外のスポーツを取り上げる。「ささえるスポーツ」においては、スポーツボランティアやスポーツイベントを取り上げ、文化的価値と地域振興への貢献を解説する。

到達目標

本稿の到達目標は、以下のとおりである。

- 1) スポーツ文化の諸相に関する基礎知識を身に付けることができるようになる。
- 2) スポーツ文化の諸相に関する理解ができるようになる。
- 3) スポーツ文化の諸相の普及と発展を自ら考え、情報を的確に収集し、多面的な視点を習得できるようになる。

提出課題

授業のあわりに、その日のポイント、動画の感想等をレスポンスにより、提出する。また、中間テストと期末テストをレスポンスにより、実施する。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

毎回の授業において、前回の授業の振り返りを行う。その際、提出されたレスポンスの内容に関する講評を行う。

評価の基準

中間テスト (25%)、期末テスト (25%)、出席 (遅刻)・授業態度・質問等 (50%)。

履修にあたっての注意・助言他

遅刻者は、開始後15分以内とし、静かに着席すること。遅刻回数は減点対象とする。講義中の質問は加点する。授業中の私語は厳禁で、使用を指示しない限り、スマホ使用を禁止とする。

教科書

.使用しない。

参考図書

、「よくわかる スポーツ文化論 改訂版」、井上俊/菊幸一、ミネルヴァ書房、2500、978-4-623-08839-3

その他

毎回の授業において、テーマに関連する動画を視聴・分析する。

授業計画

1. オリエンテーション、スポーツ文化とは？
2. スポーツのセントラルセオリー
3. スポーツへの社会化
4. スポーツの楽しさ
5. 生涯スポーツ
6. スポーツ・フォー・オール
7. 子どもスポーツ
8. シニアスポーツ、中間テスト
9. スポーツボランティア
10. アメリカのスポーツ
11. オリンピック
12. パラスポーツ
13. スポーツ政策
14. スポーツクラブ
15. 振り返り、まとめ、期末テスト

授業形態（アクティブ・ラーニング）

ア：PBL（課題解決型学習）	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート	エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション	カ：実習、フィールドワーク
キ：その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

予習：28時間
 自習のシラバスを確認し、参考文献、「ネット」等でその内容を事前に把握する。
 復習：28時間
 授業における配布資料に再度目を通り、学んだことの振り返りを行う。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

本授業を通して、子どもから高齢者までの広範囲にわたる健康分野に関する基礎知識を身に付け、健康・スポーツ関連産業の理解を深めることができることから、本学部のディプロマポリシーの達成に大きく貢献できる科目である。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

考える授業を導入し、授業中に質問し、解答したことを加点する。また、グループ学習の1形態としてペアラーニングを実施し、問題意識を共有し、課題を議論により深める。レスポンスの内容を検証し、質問や疑問に対して、回答するようにする。毎回、動画を視聴・分析し、スポーツ文化の視野を広げる。

実務経験の有無及び活用

備考